

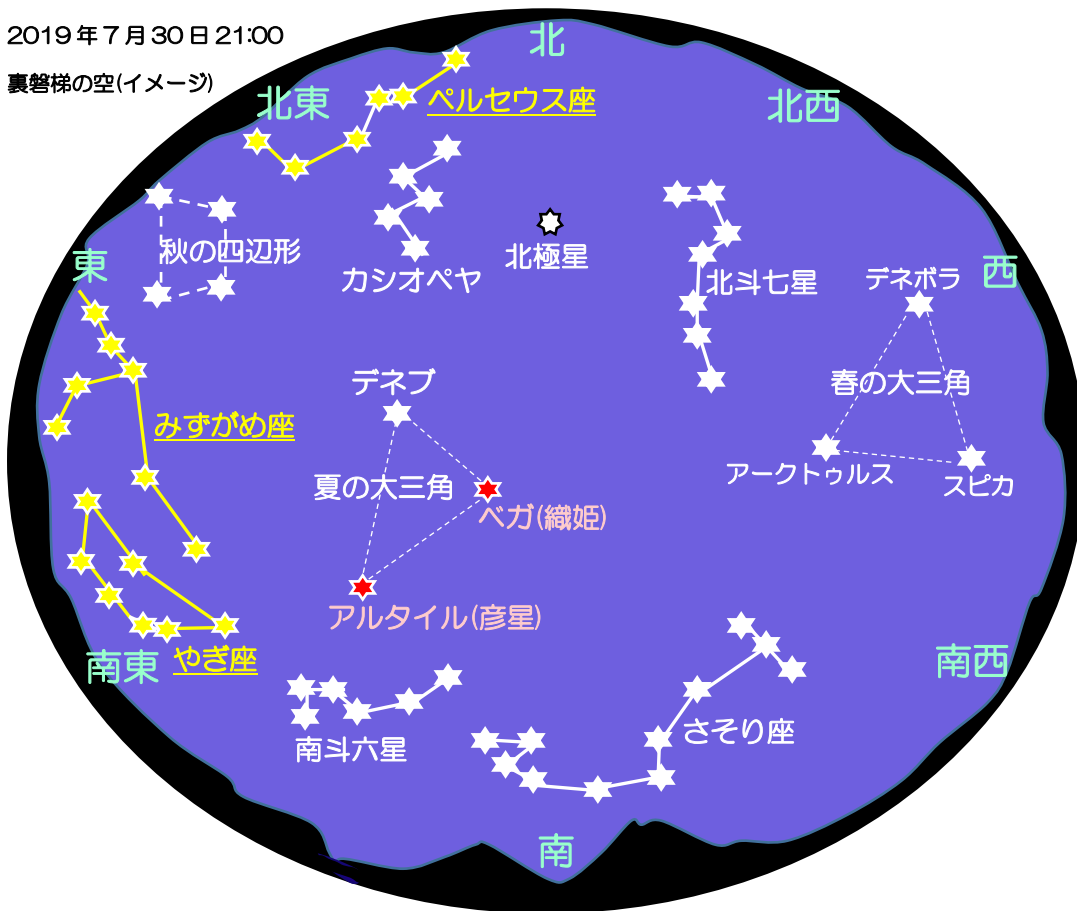
星空観察は、壮大な宇宙にふれる非日常的な体験です。星空を見上げながら、人類の存在の小ささや惑星地球の大きさを実感することができます。また、人が星を眺めるひとときに何を感じるかという多様性も星空観察の魅力です。そして、ここ裏磐梯は空気が澄み人工の光が少ない環境で、星空観察にはうってつけの場所です。快適に観察できる準備をして、家族や友人と星空旅行に出かけてみませんか？

「流星群の正体は〇〇!?!」  
 星図にも載ってなく、宇宙を旅する天体「彗星」は、チリを残しながら太陽近くまでやってきて、また遠ざかっていきます。その彗星の残していった「チリ」が地球の引力により引き寄せられ、大気圏内へと突入する際に摩擦熱で発光します。いわゆる「流れ星」のほとんどはこの現象です。そして、この「チリ」が濃密に集まっている所を、うまく地球が通過した時には「流星群」が出現します。

- 観察スポット(見える方角)**
- ・道の駅裏磐梯 (北空)
  - ・野鳥の森 (東空)
  - ・スカイバレー県境 (北東空)
  - ・スカイバレー中腹 (南西空)
  - ・レークライン中腹 (南西空)
  - ・ラピスパ (西空)
  - ・ゴールドラインこがね平 (南空)
  - ・桧原湖金山浜 (南空)
  - ・休暇村ホール (全方位)

2019年7月30日 21:00

裏磐梯の空(イメージ)



- 持ち物リスト**
- 《必須アイテム》
- ・レジャーシート
  - ・プラケット or 毛布
  - ・懐中電灯(赤セロハンを貼ると観測の邪魔になりにくい)
- 《あったら便利な物》
- ・星座早見盤(アプリも便利)
  - ・コンパス
  - ・双眼鏡
  - ・虫よけスプレー
  - ・温かい飲み物
- ※標高差による冷え込みに注意!!

2019年 7月～8月の流星群カレンダー

☆みずがめ座δ流星群 (7/12～8/23 予測極大日 7/28)

月出が0:00以降となる期間に、極大(流星が最も多く流れる日時)を迎えるため日没から夜半過ぎまで好条件で見られるでしょう。方角は南方位にあるみずがめ座を起点に放射状に流れます。

・見ごろは7/28の前後数日間でしょう。

☆やぎ座α流星群 (7/3～8/15 予測極大日 7/30)

みずがめ座のとなりのやぎ座が起点となり、時期も重なるので同条件で見られるでしょう。また、やぎ座α流星群は、火球(特に明るい流星)が多く流れることで有名です。

・見ごろは7/30の前後数日間でしょう。

☆ペルセウス座流星群 (7/17～8/24 予測極大日 8/13)

極大日は満月にちかく月入も夜明け前となるため、月の影響を受けやすくなりますが、火球の割合が多い予測です。月明りを避ける工夫としては見る方角を、一晩を通してであれば北側、夜半前は西側、夜半以降は東側を眺めると影響を受けにくいでしょう。

・見ごろは8/12～8/14の各日夜半過ぎ～夜明けでしょう。